

## 折に触れ 四字熟語

### NO. 109 『巧言令色』 こうげん れいしよく

< 意味 > 口先だけでうまいこと言ったり、うわべだけ愛想よくとりつくろったりすること。人に媚びへつらうさま。

< 出典 > 「論語」<学<sup>がくじ</sup>而> 3  
「子曰、巧言令色、鮮矣仁。」

読み下し：『子曰く、巧<sup>こうげん</sup>言<sup>れいしよく</sup>令<sup>すく</sup>色、鮮なし仁。』

通 釈：さわやかな弁舌、人をそらさぬ対応、そんな手合いにかぎって仁には遠い。

語 釈：「令色」は愛想よくとりつくろった顔色。

一 言：新元号シリーズ その2

平成の時代もあとわずかになりました。「平成最後の」というフレーズがやたら目に付きます。新元号になったからといって急に社会に大きな変化が起こるわけでもないでしょうが、時代の節目に立ち会う説明しがたい感慨を覚えます。

時あたかも統一地方選挙のまっただ中、駅頭あるいは街中で立候補者の舌戦が展開されています。その演説を聞きパフォーマンスを見ながら「巧言令色」を引き合いに出すのは酷というものでしょうか。

参照文献：徳間書店・久米旺生訳「論語」 三省堂「四字熟語辞典」